

平成十九年

恵光通

春彼岸

平成十九年四月号



狩り忘れたいちごをとつて
ゴーレムかかてね。

ダート



アリカラ猫の
ひよこ



「今年もご住職様は千葉ですか?」もう十年近く
冬場、住職は大本山法華経寺の大荒行堂での
お務め。

この時期、法事、葬儀は私、妙光が務めさせてい
ただいている。お寺での法事の度にお檀家様に
「広いお寺で入さずかれないですか?」

私の事をお気遣い下さるそのお気持ちに感謝。
夜ふとんに入り目を開じ 広いお寺には私ひとり
と困うと不安に感じじるが、ありがたいことに寝つき
が良いので不安感も長くは続かない。この体质に生
んでくれた父母に感謝。

住職の留守中お寺を守る責任の重さをつくづく
感じ、住職が正福寺に居てくれるとのありがたさ
に気づき、住職に感謝。
境内地に春の花が咲き始めたが、住職が千葉
から戻り妙光の心に寒い冬から穏やかな春が
やってきました。やれやれ、ほとひど安心。

お知らせとおねがい

恒例

バザー&法華えうどんを開催致します。

時間十一時～十三時まで

※十三時で法華えうどんの御接待を
終了致しますので十三時までに
お越し下さい。

別紙でご案内致しました春季彼岸法要。

三月二十日、春分の日。

前回のお年玉クイズの
答えは四月一日でした

正福寺グラウンドゴルフ

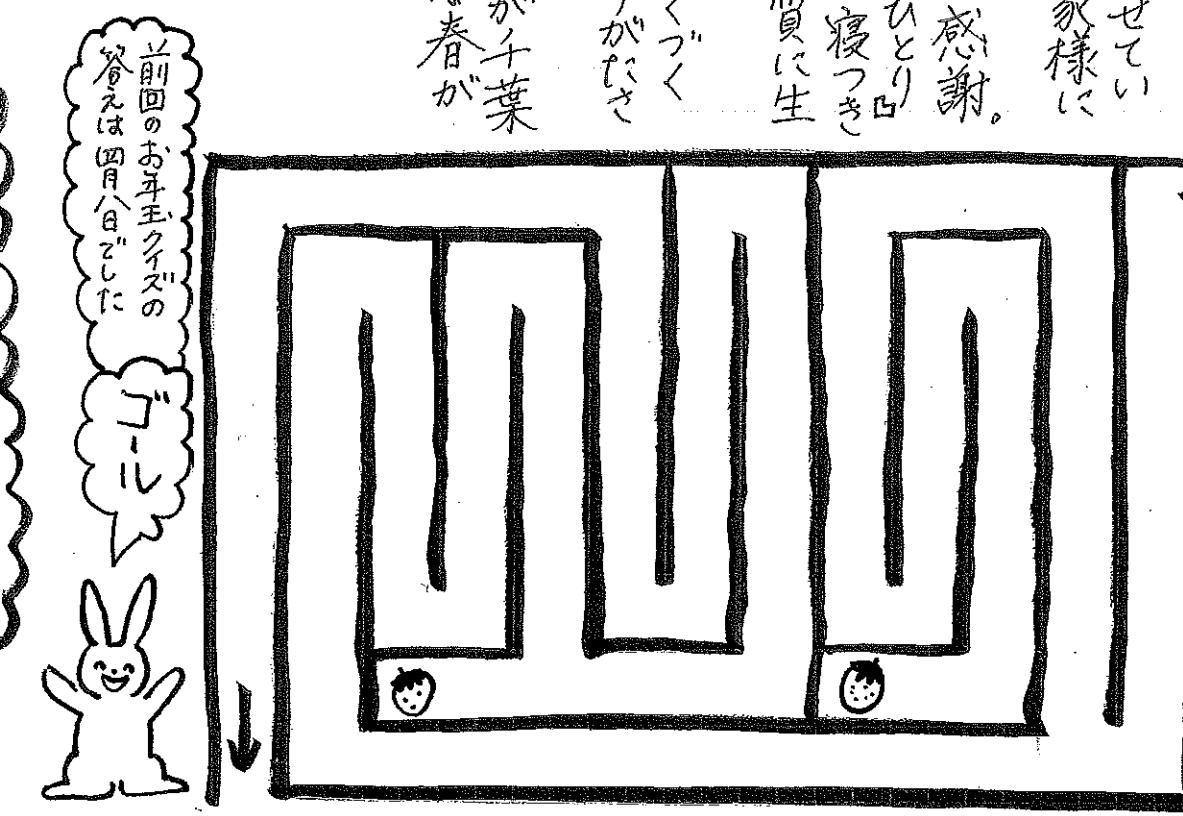
スイング
大募集!

○岡山県日蓮宗主催のグラウンドゴルフ
大会に参加など

○ご入会の方は正福寺にTEL、FAX下さ
い。

半度重なる国内外の自然災害。前回のバザー
収益金を義援金として募金致しましたが、これから
も続けていきたいと思っております。

バザー商品のご寄付のご協力よろしくお願ひ致し
ます。(商品は新品の物に限らせていただきます)



日蓮宗の月例金曜講話

2月3日「月例金曜講話」から要旨摘録

我儘減らして仏儘(ふつままで)

断崖絶壁の下に人がいます。登るうとしても登れず、もがき苦しんでいます。その時、上からスルスルと1本の縄が降りてきました。崖の上から「おい、この縄につかりなさい。引き上げるから」との声が。そんな時、「途中で上の人が力尽きて縄を離してしまったから」との声が。そのままが教つてくださる。純粹に信じてみてください。苦しかった時に、仏さまに救い上げてもらつた1人として、崖の上で見えてきたもの、気づいたことをお話しします。



布教専修師
岡山県正福寺修徒
菊岡 妙光 師

東京池上にござります日蓮宗新聞に掲載されました。お説教が日蓮宗新聞に掲載されました。



出会った法華経話を感銘を受け、その童話を作つた身延町の蓮華寺で修行を積むことになり、それが縁で母の兄弟子・意健師と結婚しました。平成12年のことで私は25歳

ませんでした。夫婦ともに岡山には知り合いません。勝手が分からぬい上に相談する人もいませんでした。もともと人見知り気味の性格もあつたので、檀家の方にも

始めたときさやかれ、急用で実家に帰つたタイミングでお寺に大事な用事を掛けたり。そんなことが続くとどんなん悪い方向に考えが進みます。周りはみんな敵だらけ。私は無視され、被虐妄想のよ

う。周りはみんなが不安になるのは当たり前なんだ。それに気がつかず、今まで自分から心を開いていたんだ。岡山に来てよかったんだ

と。私は自分のことしか考えてなかつたので、

う。周りはみんなが不安になるのは当たり前なんだ。それに気がつかず、今まで自分から心を開いていたんだ。岡山に来てよかったんだ

う。みんなでお題目のありがたさを広めていきましょ

私は奈良県の一般家庭に生まれました。母はお題目を唱えることで生まれ持つての病弱を克服しました。そんなことから特に信仰熱心でした。母は身延山に参詣した折に

私はそれまで、故郷を出て暮らした経験があり

でした。そしてその年、縁あって岡山県倉敷市正福寺に惠健師が入寺。私はお寺の奥さんとして正福寺に入りました。

私はそれまで、故郷を出て暮らした経験があり

めすにいました。毎日が空回りの連続でした。誰でもお参りでぎるよう

と「今度の奥さんは扉を開け放しにする」と言われ、夏に生花がすぐに飾られてしまうので造花を飾れば「おかしなこと

寺庭婦人仲間にも溶け込

うな状態になりました。

めすにいました。毎日が空回りの連続でした。誰でもお参りでぎるよう

止まらなくなり「夫もお寺も捨てて逃げだした

い」と思いつめました。その時、救つてくれたのが信心でした。お寺の奥さんとして認めてもらえた。お坊さんといふなら、お坊さんとして仏さまの近くで生きていこうと思つていました。総代さんからは

いこうと思い、出家得度を決意したのです。大反対されるだろうなどと思つていましたが、結果は違いました。総代さんからは賛成だけではなく、「がんばれよ」と励ましの言葉をもらいました。

その時が崖の上に引き上げてもらった瞬間でした。崖の上に立つて見えなかつたものに気づきました。「私のような若者が不安になるのは当たり前なんだ。それに気がつかず、今まで自分から心を開いていたんだ。岡

「小僧えっけん君」⑯（住職小僧体験記）

～～～えっけん君の荒行（2）～～～

恥を忍んで小生の小僧時代のお話をさせて頂いております。ここまでお付き合い頂き心より感謝申し上げます。

前回は いよいよ荒行の準備を整えたえっけん君が 荒行堂のある千葉県市川市中山の大本山法華経寺に出発するところまでお話をさせて頂きました

10月29日 意を決し千葉に向かった えっけん君はまず31日まで連泊する荒行堂の近くのホテルに入りました。

前回もお話を頂きましたが 11月1日から始まる荒行の入行僧は二日前に集合する決まりとなっています。何故かといいますと 10月30日に荷物運び（先輩の荷物を一回目の修行の者が運ぶ） これがかなりの重労働で先輩の荷物は初行（一回目の修行者）の荷物とは違い 机やらお札など 大荷物なのです。それを短時間でやらなければならず えっけん君もふらふらになりながら どうにか運び終えました

その後すぐに 荷物検査。これは修行に不必要的ものが 入ってないか徹底的に検査を受けるもので 万が一そのようなものが見つかった場合 没収されるか 入行を取り消される場合もあるのです。

しかし その日は それが終わればホテルに帰れることが出来るので 少し気が楽なはずなのですが、はじめて顔を会わせた先輩達の威圧感 やはじめて荒行堂の中に入った緊張感から解放される事は無く 益々 気が滅入り 食事も喉を通らなくなってしまいます。えっけん君も明後日にはいよいよ食べられなくなるので 一生懸命食べようとするのですが全く食べられません。意を決し 来たつもりだったのに胃を欠するはめになるとは・・・情けない話です

31日はやはり荒行堂に行き 今度は先師法要といつて 荒行堂のある法華経寺の歴代のお上人の供養をして百日間 無事に修行が全う出来ます事を 皆で祈る儀式に参加するのです。その日も やはりホテルに帰れることが出来るのですが やはり昨日同様 食べられない 眠れない コンディションは悪くなる一方です。

どうにか、こうにか 眠ったような、眠れなかったような・・・

そんなことはお構い無しに 11月1日の朝が残酷にもやってまいりました。

えっけん君も いよいよ覚悟を決めもう帰れないホテルを、そして 100日間帰れない娑婆世界を後にしたのでした。

多少 往生際が悪いですが ついに次回は入行いたします やれやれ